

＜①臨床系教員の研究時間確保＞

- 医師における臨床と研究に携わる時間の管理などを含めた臨床研究教員の研究時間の確保は挑戦的な目標であり、3年後の進捗状況確認で優れた進捗が見られる場合には、他の大学にも積極的に横展開することを期待。

＜②研究環境の整備・充実＞

- 大学統合のモメンタムが非常に高い時に、かつ医工連携のトップレベルの大学が融合することで、今後これまでより高いレベルでの研究開発が行われることを期待。
- 基礎研究の社会実装は各大学が注力しているが難しい課題。新産業創生研究院において東京科学大学独自の強みを具体化していくことが必要。

＜③研究力の指標・評価・モニタリング＞

- 総合知という観点では東京工業大学と東京医科歯科大学の統合ではすべての分野を網羅できない点もある中で、現状の課題やリソース配分、文系大学等との連携についても今後検討が必要。
- 一橋大学・東京外国語大学・東京藝術大学・横浜国立大学等との連携を進める中で、国際卓越研究大学としてこれまで以上に人文社会系との連携が進むことを期待。
- 医工連携は論文創出の先に社会実装に向けた死の谷が存在するので、体制強化計画を進める中で社会実装を加速する仕組みや評価方法についての議論も必要。

＜④人材育成＞

- 目標どおり博士課程人数を増加するために必要な改革や人材育成を進めることを期待。
- 博士課程や研究人材の増加や国際化の推進に期待。一方で博士課程人材を海外から採用するばかりではなく、日本人学生の育成も進める必要。

＜⑤ガバナンス体制＞

- 2つの指定国立大学について2年で統合を完結させたことを踏まえ、今後6年で抜本的な改革を進め医工連携で世界トップを目指していくことを期待。
- 2年間で大学統合をまとめ上げた実績を活かし、今後、国際卓越研究大学の計画を着実に進めていくことを期待。

＜⑥人事・給与システム＞

- 今後、国際化を急激に進める中で、海外から優秀な教員をすぐに雇用できるとは限らないので柔軟な対応を工夫されたい。